

みやけの風

第 93 号

平成14年(2002年)9月7日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

「朝鮮半島の方じゃ台風で大変だな」「三宅島の方もこれからが心配だしよ」「だから。作業してる仲間らもケガしんなよと、オラいつつも心配してるぞ」「それが一番よ。ところで、桐ヶ丘と八王子の集まりはどうだったかな」「だれかが言ってたけど、役場と議会と住民がひとつになるためにやってるだからよ」「そのための話し合いだからな」

みんなの声

阿古の「二島コミュニティ会館」

平成14年9月3日、全島民避難からちょうど2年の日に私と「がくあじさいの会」の北川さん、池田さんで「地域サービスがくあじさい」の活動場所、阿古の「二島コミュニティ会館」に行ってきた。

「地域サービスがくあじさい」とは村の補助を受け社協事業として障害者団体「がくあじさいの会」と一緒にすすめている活動で、島で障害者が社会参加を目的にアルミ缶リサイクル活動、創作・レクリエーションなどを主に行っていました。

早朝、私は甲板に出るとイルカが出迎えてくれ幸先よい気持ちで錆ヶ浜港へ入港し、すぐに建物へ向かいました。敷地の近くまで来ると目に飛び込むのは、私と同じ高さまで伸び建物の裏までおおい茂った草でした。それを玄関まで何とかかき分け、ドキドキしながら戸を開け、かび臭く湿った空気が充満している室内に入ると、一瞬、2年前までの記憶が頭をよぎり涙が出そうになりました。

今回の目的は施設内の点検整備、物品の持ち出し、建物の様子をビデオ撮影することです。建物の様子は雨漏りと湿気による傷み、ほこり、カビ、ネズミの被害がありましたが、同じ敷地内の作業小屋は被害が少なく、書類やまだ使えるかもしれない電化製品はそこに移し、物品の持ち出しでは「がくあじさいの会」が作り売っていた貝のキーホルダーの在庫品などを発送用にまとめたりしました。

そんな作業も一区切りついたときのこと、何を思ったか北川さんが恐怖の冷蔵庫を開けてしまった！（その様子はここでは書けません。撮影もせず、ご想像におまかせします。）

現在、「地域サービスがくあじさい」の仲間達は避難先でそれぞれの交流を持って生活しています。今回撮影したビデオはそんな仲間を観てもらおうと考えています。少し辛い思いをさせてしまうかもしれませんが、私たち職員が仲間ができる一つの役割だと考えています。

(三宅島社会福祉協議会 金長 雄二)

「耳より情報」⇒

「世界最大の恐竜博2002」へのご招待

幕張メッセで開催されている「世界最大の恐竜博2002」の招待券（小学生のみ）が200枚あります。必要な方は以下にご連絡をお願いいたします。先着順とさせていただきます。

場 所：幕張メッセ、国際展示場9ホール

開催期間：9月22日まで

開催時間：午前9時30分～午後5時30分

応募期間：9月18日まで

招待券：小学生のみ

連絡先：キヤノン株式会社 社会貢献推進課

キヤノン株式会社より、耳寄り情報をいただきました。展覧会の期間が9月22日までですので、お早めにお申し込みください。

榊原（電話03-5482-8541）

三宅島支援センターより 「島民対話集会」へのメッセージ

今日ばかりは、本当にうれしく思っています。さきほど、佐藤会長の挨拶を聞いていて、本当にここまで来たなというふうな気持ちでいっぱいです。

三宅島の事件は2年経っても、今、佐藤会長が本当に心の底から行政や議会の皆さん、そして、東京、国に対してお願いをされていたようなことが、実はまだ解決をされないような災害であります。

2000年の7月、私も島に入って皆さんと一緒に、ささやかではありますが精一杯島の灰を掘ってまいりました。そして、全島避難をしたその翌日に、島の人たちといっしょに、島の皆さんの将来を決めるために支援センターを作らしていただきました。

そして、2002年4月21日第4回のふれあい集会で、佐藤さんや有馬さんを中心にして、立派な島民連絡会が設立をされました。島民が島民のために、島に帰り、困難な復興に向けて、皆さんが力をあつめ知恵を集めなければならないと思っています。

つらい2年間の中で、今やっとこの豊島区民センターで、島民の皆さんが心の底から、自分たちの気持ちと思いとこれからを語ろうと始めています。

5つの地域に分かれていた一人一人のつながりが、この避難を経て、今まであまりご縁がなかった人たちと一緒にこのつらいことを引き受けているということをとくさ

ん聞いております。地域の島民会は、高齢化という一つの大きな現実のなかで運営さえ難しいということもたくさん聞いております。

しかし、私たちは少なくとも2000年とは違う人たちに今、なりつつあります。みんなが、今日も行政の皆さんと一緒にこうやってつらいことを話し合い、出来ることを解決をしようという気持ちを私たちは確かに今持っております。島も変わりました、しかし、島民も大きく変わっていることに、私は、希望を持ちたいと思います。

必ず大久保の浜でみんなと一緒に復興のお祭りをしたいと思います。三宅島の人達を支えているたくさんの善意のエネルギーを集めて、復興に向けて皆さんと一緒に歩いていかれる日を、私は限りなく希望をいたしております。

ここから7ヶ所の島民対話集会に心から期待をいたします。支援センターもささやかですけれども、皆さんと一緒に本当に復興と復興が実現できるまで、歩んでまいりますことをお約束をして、支援センターからのささやかなご挨拶とさせていただきたいと思います。

どうぞ皆さん、つらいけれども人を信じて、そしてみんなの力を信じて、一緒に地域を支えて行きたいと思っております。どうぞいっしょに歩んでまいりましょう！ありがとうございます。

(三宅島支援東京センター事務局長 上原 泰男)

【2002/8/24 三宅島島民連絡会主催 三宅島島民対話集会 豊島会場にて】(要約 編集部)

みやけふれあいコールボランティア大募集!!

電話帳第3版も完成し、新たに移転先などの電話番号をお知らせいただいた方も増えました。島民同士の声の支え合い、みやけふれあいコールもさらにパワーアップして、皆さまのところに邪魔しようと思っています。「私も声かけ電話をしてみようかな」と思っただ方は、迷わず東京センターまでお電話ください。この活動の内容・目的など、詳しくご説明します。お電話、お待ちしております。

内 容：島民の方への電話での声かけボランティア
活 動 日：毎週 火・木・日曜日(都合の良いときを前もってご連絡ください)
待 遇：交通費は実費・昼食代(1日700円)を支給
お問い合わせ：三宅島災害・東京ボランティア支援センター 03-3260-7573